

# 第1回 HOKKAIDO WOOD BUILDING 表彰 審査結果

## 1. 審査講評

今回の選考では、受賞建築以外にも魅力的な建物が多く、選考委員会としては非常に困難で贅沢な悩みを抱えることとなりました。結果として次にご紹介する4つの建築が受賞することとなりましたが、いずれも甲乙つけがたい力作ばかりであったことを付け加えさせていただきます。

受賞された皆様のご尽力に敬意を表するとともに、今後も道産木材の利用促進に向けた益々のご活躍を期待しております。

表彰選考委員長 植松 武是（北海学園大学 工学部長/建築学科 教授）

## 2. 木造部門受賞作品

### (1) ザ ロイヤルパーク キャンパス 札幌大通公園【札幌市】

所在地：札幌市中央区大通西1丁目12

用途：宿泊施設、飲食店

構造及び階数：鉄筋コンクリート造・木造 地下1階、地上11階、塔屋1階

建築面積：695 m<sup>2</sup> 延べ面積：6,157 m<sup>2</sup>

竣工年月日：2021年8月31日

HWB登録年月日：2021年10月1日

建築主：三菱地所株式会社

設計者：株式会社三菱地所設計

施工者：清水建設株式会社

構造材：1,062 m<sup>3</sup>うち道産材 908.5 m<sup>3</sup>（トドマツなど）

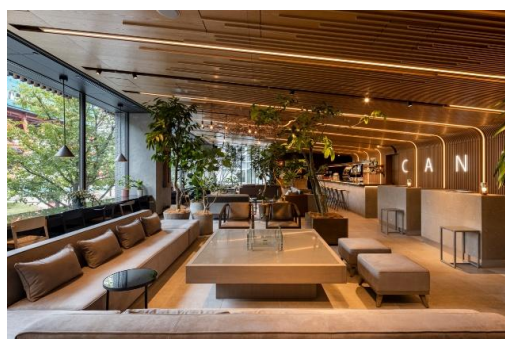
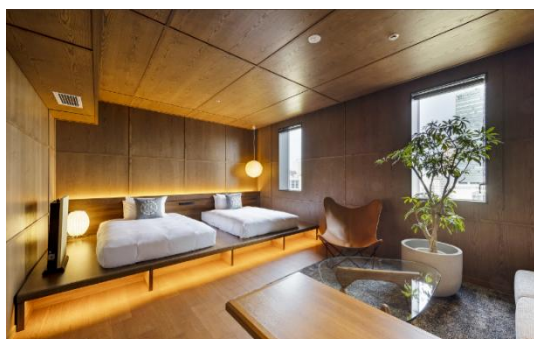
内装材：17.5 m<sup>3</sup>うち道産材 17.5 m<sup>3</sup>（タモなど）

外装材：124 m<sup>3</sup>うち道産材 124 m<sup>3</sup>（カラマツなど）

表彰理由：

HOKKAIDO WOOD BUILDING 登録制度における木造を含む高層の建築物として第1号となる先駆的な取組であり、都市部における木造建築の普及を目指す上で、可能性を大きく広げる事例といえる。

CLTを活用した型枠工法など、設計・施工の各段階において新たな技術的チャレンジが積極的に行われている等、こうした先進性やチャレンジを総合的に評価し、今後の木造建築の普及・発展に資するものとして、表彰に値する建築物である。



## (2) 浦河フレンド森のようちえん【浦河町】

所在地：浦河郡浦河町東町かしわ4丁目339番2

用途：教育施設

構造及び階数：木造（立体トラス）平屋建て

建築面積：1,331.27 m<sup>2</sup> 延べ面積：998.26 m<sup>2</sup>

竣工年月日：2022年2月28日 HWB登録年月日：2022年7月1日

建築主：学校法人フレンド恵学園

設計者：株式会社照井康穂建築設計事務所

施工者：岩田地崎建設株式会社

構造材：94.5224 m<sup>3</sup>うち道産材 59.2913 m<sup>3</sup>（カラマツ）

内装材：8.3097 m<sup>3</sup>うち道産材 8.3097 m<sup>3</sup>（ナラ、カバ、クルミ）

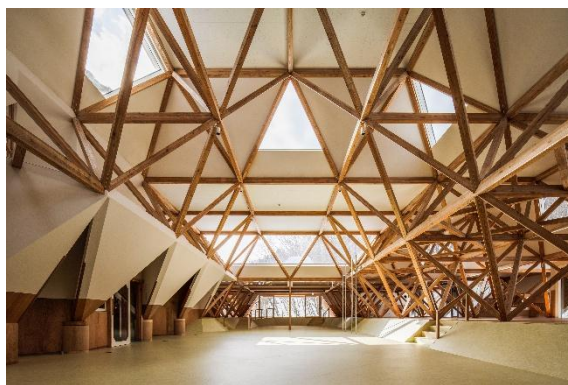
外装材：7.5828 m<sup>3</sup>（欧州アカマツ）

表彰理由：

複雑に入り組んだ立体トラス構造を採用しており、その大胆かつ繊細な木構造は、幼稚園という用途だからこそ実現し得たものと評価できる。

構造的合理性にとどまらず、意匠性や空間構成においても一貫して子どもの視点に立った計画がなされており、本建築でなければ成立しない、極めて創造的な木材の使い方が体現されている。

構造・意匠・用途の三要素が高い次元で融合した点を総合的に評価し、木造建築の新たな可能性を示す優れた事例として、表彰に値する建築物である。



### (3) 北海道立北の森づくり専門学院【旭川市】

所在地：旭川市西神楽1線10号

用途：教育施設

構造及び階数：木造 一部鉄筋コンクリート造 地上2階・地下1階建て

建築面積：1,033.4 m<sup>2</sup> 延べ面積：1,289.72 m<sup>2</sup>

竣工年月日：2021年1月29日 HWB登録年月日：2022年7月1日

建築主：北海道

設計者：〔建築〕株式会社遠藤建築アトリエ

施工者：〔1工区〕高組・多東・サンエービルド特定建設工事共同企業体

〔2工区〕荒井・谷脇経営建設共同企業体

構造材：244 m<sup>3</sup>うち道産材 241 m<sup>3</sup>（トドマツ、カラマツ）

内装材：9 m<sup>3</sup>うち道産材 9 m<sup>3</sup>（カラマツ、エゾマツ、道南杉など）

外装材：21 m<sup>3</sup>うち道産材 21 m<sup>3</sup>（カラマツ）

#### 表彰理由：

本建築物には、CLTをはじめとする多様な構造的工夫が随所に取り入れられている。CLTが本来有する「大空間を形成できる」という特性を活かすだけでなく、張弦梁などの構造手法を組み合わせることで、その可能性をさらに拡張し、より自由度の高い空間構成を実現している点が高く評価される。

CLTの新たな活用方法を提示する創意工夫に加え、複数の先進的な技術が効果的に融合された建築であり、木造建築技術の発展に寄与する優れた事例として、表彰に値するものである。



## 2. 木質化部門受賞作品

### (1) KINOTOYA FARM【札幌市】

所在地：札幌市清田区清田1条4丁目4-25

用途：商業施設

構造及び階数：鉄骨造 平屋建て

建築面積：527.54 m<sup>2</sup> 延べ面積：456.86 m<sup>2</sup>

竣工年月日：2019年11月15日 HWB登録年月日：2022年2月25日

建築主：株式会社きのとや（建築時：株式会社COC）

設計者：株式会社竹中工務店 北海道一級建築士事務所

施工者：株式会社竹中工務店 北海道支店

構造材：なし（鉄骨造）

内装材：道南杉錬付不燃化粧板

外装材：20.55 m<sup>2</sup>のうち道産材 18.3 m<sup>2</sup>

表彰理由：

構造は鉄骨造でありながら、それを感じさせないほど効果的に木材が用いられており、木質空間としての印象や価値を強く打ち出し、一般の来訪者にも親しみやすく、木材の魅力を直感的に伝えることができている点が高く評価される。

専門性に偏ることなく、広く一般の方々に木材の良さを訴求できる建築である点は、木造化・木質化の普及という観点からも意義深く、高く評価されるべき優れた事例である。

